

沖縄都市の職業構造

波平勇夫

The Occupational Structure of Okinawan Cities

はじめに

- ①都市の階級・階層研究
- ②調査方法
- ③職業構造と都市構造・変動
- ④職業移動の心理的メカニズム
- ⑤職業移動と社会意識
- ⑥地方都市の比較分析

おわりに

【論文概要】

本稿は一九七七、一九八七、一九九七年の各年度に実施された「〇年毎の時系列調査—沖縄都市職業構造調査」を総括して、沖縄都市の社会構造を明らかにすることを試みる。この調査は一貫して三つの問題を追究してきた。それは、①個人の職業的地位を規定する要因 ②職業的地位の変動と社会意識の関連、③の二つの側面からみた沖縄地方都市の比較、の三点である。

調査されたのは、沖縄県「〇市の満二十歳以上七十歳未満の男女から抽出されたサンプルである（一九七七年調査は男性のみ）。データ収集は質問紙による面接調査にもとづく。

調査結果の主なものはつぎのとおりである。上昇移動や下降移動の動向からみて、沖縄の都市社会も移動社会といえるが、相対的に非移動率が高い。これは構造的閉鎖性というより、経済的停滞性に起因するとみられる。

沖縄都市社会は個人関係をベースとした二者関係社会（ネットワーク社会）といえ
る。それがインフォーマル・ルートを増殖させ、地域移動や就業活動に深く関わって
いる。ただし、地域移動による階層移動上の統計的メリットではなく、ネットワークが
階層移動に影響しているとはいえない。
職業移動における学歴効果は明かであるが、半面、教育機会は不平等になっている。
学歴形成、婚姻形態、とともに世代間移動、達成動機からみて沖縄も階層社会（構造的
不平等社会）といえる。ただし、社会階層および階層移動と社会意識との間に長期
的にみて一貫した関係は見出しがたい。